

ガーナってどんな国？ - 初めて出会うアフリカの国 -

所属	岐阜聖徳学園大学附属中学校	実践者	河田 康皓 (G)
対象	中学1年生 (89名)	時間数	60分×9時限
場所	本校 各英語教室	実践教科	英語
ねらい	<p>①単元内自由進度学習で興味のある分野について自分で調べ、生徒が主体的・自発的に興味にある内容について調べ発表することができる。</p> <p>②写真を示し現在進行形で「～は〇〇をしています」と説明することができる。</p> <p>③英語で発表や掲示物などを作成する過程で、辞書を用いて自分の言いたいことを英語で表現することができるようになる。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>オリエンテーション 3コースある学習教材の各コースの説明と学習計画表の作成</p> <p><JICA コース> JICA がガーナで行っている事業についてまとめた学習シートを進めていくコース。</p> <p><ナシヨジオコース> チョコレートができるまでを取材する記者仕立てのストーリーで学習シートを進めていくコース。</p> <p><ガーニアンコース> 現地の小学生との交流をしていく上で生活や文化についての学習シートを進めていくコース。</p>	<p>パワーポイント「ガーナクイズ」</p> <p>チェックテストなどで生徒と触れ合う時は基本的に褒めることを意識する。また「教える」ことよりも「考えさせる」ことに徹する。</p> <p>教師海外研修で撮影した写真・動画の一部はクラウド上で共有されどの iPad からでも閲覧・活用可能。</p>
	2-8	2-8時限内で生徒は自分で作成した学習計画表を元に各自のペース、自由な場所でチェックテストを一部受けつつ学習を進めていく。	
	9	人前で発表することが得意な生徒は iPad にインストールされた PowerPoint を利用して英語でプレゼンテーションを行う。人前で話すことが苦手であったり、イラストなどが得意な生徒はイラストを描いたり写真を貼ることで、英語で説明をつけた掲示物を作成する。	
成果	教師主導で知識を習得するのではなく、生徒の興味関心に沿ったテーマを生徒自身が選択し深めていくことで意欲的にガーナの文化や JICA の取り組みについて理解する生徒が多かった。与えられた文章を英訳することが苦手な生徒も、自分の言いたいことならば積極的に英語で表現することができた。生徒によっては一人一台ずつ貸し出した iPad を活用してかなり高度な英文を作ることができる生徒も多かった。		
課題	より深い生徒理解に基づいた学習コースや興味関心に即した教材や学習環境の整備が必要であること。発表の内容により多様性を持たせるために教材の出口に広がりをもたせたものにしていく必要がある。英語の観点別評価「異文化理解」を中心に行っているが、読み書きの時間を増やすために音読を学習シートに組み込むと良かった		
備考			

[授業実践の詳細]

1 時限目「オリエンテーション ガーナってどんな国？」

1 子どもの活動の流れ

- ① 本単元の総合オリエンテーションでガーナの基本的な知識を写真など通じて日本とのつながりや共通点・相違点を学ぶ。
- ② ガーナクイズに参加することでガーナの文化に肯定的にであらう。(異文化理解)能力別のコース選択ではなく生徒が「やってみてみたい・面白そう」と感じたコースを選択し、9時限で発表を含めて自分がどのように取り組むかの計画表を作成する。
- ③ 「世界を知る、世界の国から学ぶ私たちの地球と未来 ガーナ共和国」より、青年海外協力隊経験者の経験談を読み、「日本と違っていいところ」「日本と違って嫌なところ」「日本と同じところ」にマーカーで印をつけグループで交流する。

この時限のねらい

ガーナに関するクイズを通じ海外の文化に肯定的に出会い、より知識を増やしていきたいと思うことができる。興味のあるテーマに基づいて3つの学習コースから自分が学習を進めていく教材を選択する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 教科教室に来るなりに民族楽器のアサートを手に取り「これはどうやって鳴らすの」と新しいものに対する興味を持った。マラカス、ジャンベなどのシンプルな楽器を手に取るができるように設置してあったので早速手にとって鳴らすことでガーナとの出会いを果たした生徒が多くいた。
- ◇ ガーナクイズでは文字だけでなく実際に現地でも撮影した写真や現地でのエピソードを交えて行ったことでより生徒の興味を引くことができたように感じる。
- ◇ 「日本と違っていいところ」はあまり見つけることができなかった。まだ様々な国の価値観や自国の良いところを明確に意識できていない様子であった。時間をかけて自国の良いところを考えさせるワークを入れたほうがよかった。

3 使用した教材

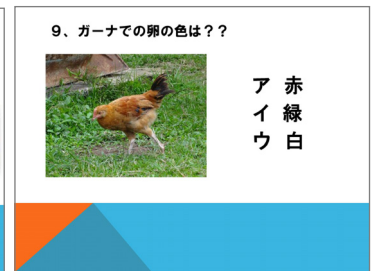
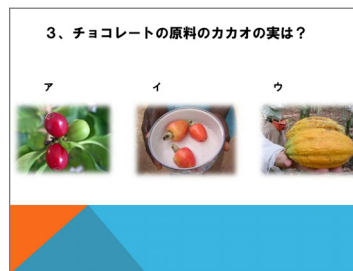
<教材1> ガーナクイズ (パワーポイント)
 …参考資料: 公益財団法人愛知県国際交流協会「世界を知る、世界の国から学ぶ私たちの地球と未来 ガーナ共和国」

<教材2> 学習シート「JICA コース」…教師

海外研修で訪問したJICAがかかわるODA事業に関する文章などを読んで内容をまとめていくことが中心になる。対象は公務員や社会貢献海外で仕事をすることに興味のある生徒を主に想定している。

<教材3> 学習シート「ナショジオコース」…教師海外研修で訪問したカカオ農園からチョコレート工場、出荷する港までに関する文章をまとめていくことが中心となる。対象は異文化理解に積極的ではない生徒。身近なチョコレートを通じて世界のつながりを感じていく。

<教材4> 学習シート「ガーニアンコース」…教師海外研修で訪問した学校や家庭の様子や食文化からガーナの小学生の生活についてまとめていくコース。海外の文化に興味のある生徒が対象。



ガーナの中学生が話してくれた内容をまとめてみよう。

0 : 00

18 : 00

6 : 00

12 : 00

まとめてみよう

おなごところ

ちやうところ

学習シート7

This is a picture of Wednesday morning. We're singing a song for God. Teachers playing the drum. We play the drum many times in a day at school. This is a Talking drum. We can tell message with this drum. Do you have music class at your school? What do you do in the class?





Music class in Japan

We study

以上で学習シートは終了です。このコースではガーナの食文化や生活学校の様子などを紹介しました。最後ですがここからは二手に分かれます。よりガーナの文化を深く調べて発表していく人と、日本の生活と比べたり、ガーナの中学生に日本の中学生の生活を紹介する写真付きの新聞や動画、プレゼンテーションなど自分の興味のあることについて深めていき、自分の好きな方法では発表まで持っていくでしょう。

写真は実際に現地でも撮影してきたものです。今後は君たち自身で調べたことを新聞形式やビデオやプレゼンテーションで発表してもらいます。パソコン室・メディアセンターは空いているときは使用して構いません。パワーポイントはパソコン室のパソコンには限りがあるので iPad に入っているものを使ってください。どの iPad からでも自分のファイルにアクセスできるので作業の効率もよくなります。また、学習シートに使った写真は iPad にすべて入っています。原稿や文章の下書きは制作に入る前に一度先生のチェックを受けてください。

発表は19日金曜日。計画通りに進めていこう！

2-8 時限目「ガーナってどんな国?? 自ら出会うアフリカの国」

1 子どもの活動の流れ

- ① 教室に到着した生徒から各自所定の場所からタブレット端末を受け取り、学習計画票を元に教室だけでなく教科ゾーンを中心として好きな場所で、好きな相手と共に学習カードの内容を進めていく。学習シートごとに教員のチェックを受ける。
- ② 解らない単語、表現はタブレット端末をつかって調べる。ただし使ってよいのは辞書のみで文章翻訳は使わない。正しい語順を覚えることで正しい位置に適切な意味の単語を当てはめていくことで文章を表現する。
- ③ 制作物や発表のルールとして本単元で学習する現在進行形を用いて、写真を「～が～をしています」という表現を必ず含むことの一点のみを定めた。

この時限のねらい

学習シートを用いて自分のペースで学習を進めることで、教師に教わるのではなく、能動的に異文化に接することができる。英語の文章の構造を理解することで表現の幅を拓けることができる。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 学習シートのチェックでは極力間違えた所は指摘せずにはできたことを誉めることを心がけた。一斉授業の中で英語に対して苦手意識を持っている生徒に対して達成感を与えるとともに「普段の授業は解らないけど、今回の授業はできるような気がする」という意識の転換ができている様子であった。
- ◇ 流動的にペアやグループが形成されたり、個人での作業に没頭する時間などが生まれるなど、生徒の適

正に合った学習形態で課題に取り組んでいた。

- ◇ 一斉授業においてはすでに塾などで学習済みの生徒は、すでに知っている内容の授業を聴くこととなるが、本学習の場合はより知識を深めることや、難しい英語表現を使いレベルにあった表現を活用することができた。

3 使用した教材

<教材5> iPad Air 30台 iPad用Power Point <教材2~4> 学習シート3種類

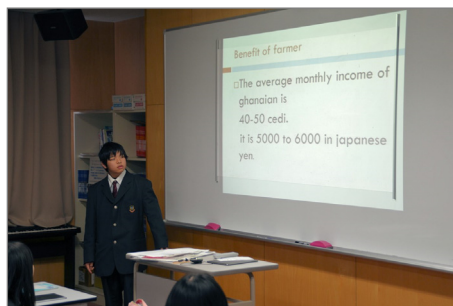
9 時限目「発表！ ガーナについて調べたこと」

1 子どもの活動の流れ

- ① 調べたことを表現する方法として、プレゼンテーションやスピーチを選択した生徒はクラスの前で発表する。学級によって発表することを選択した生徒の人数により持ち時間は2-3分程度で行った。
- ② 作品展示を選択した生徒については作品を提出する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「極力、すべて英語で行うように」という声掛けはしたが、ほとんどの生徒がパワーポイント資料も含めすべて英語で行った。
- ◇ プレゼンテーションをするうえでの視線の使い方、話し方を実践することで、人前で話すときに大切なことを実践した。
- ◇ 掲示物を作成した生徒の作品を展示すると興味深く休み時間に他の生徒の作品を見る姿が見られた。絵を描くことが好きな生徒は自己表現の場になっている様子であった。



この時限のねらい

興味関心のなる内容について調べた内容について生徒各自の発表のしやすい形で英語を用いて表現することができる。他の生徒の発表を聞くことで様々な観点からガーナについての知識を深めることができる。

3 使用した教材

<教材6> 生徒作成の Microsoft PowerPoint ファイル (onedrive によってPCと iPad 間で共有)

■ 全体を通して

1 学習空間構成

本学では教科センター方式とよばれる教育方針をとっており、教科の授業は全て教科教室で行われ生徒

が毎時間移動する形態で行われる。そのため各教科教室は教科の教員の手によって学習中の単元に応じた掲示物やオープンスペースを活用した学習空間を構成する。とりわけ本単元では教員の講義式の授業ではなく、あらかじめ生徒の興味関心に合わせた流れのある学習教材が準備され、生徒自身が学習計画を作成し自分で学習を進めていく単元内自由進度学習とよばれる学習形態を進めていく。教師の講義式でない分生徒は学習空間に掲示され散る掲示物をはじめとした学習空間からヒントを得て学習を進めていくため、学習のための空間作りが重要となる。本学習形式は学習コースが3コースに分かれるものの能力別のコース選択ではなく、内容は異なるもののレベルは同程度でテーマとして扱う内容が異なる。そのために学習のテーマに当たるガーナの文化により興味を持たせるために実際にガーナにて購入してきた民族衣装を展示するなど雰囲気作りのための学習空間作りも欠かせない。本単元が始まる前に英語の教科ゾーンの学習空間構成を行った。また様々な情報を教師から与えられるのではなく自ら見つける・探す・会うために一人一台に貸与するタブレット端末にはクラウド上で共有したガーナ研修中の写真がどの端末からでもアクセスできるようになっており、制作物に使用可能とした。

雰囲気作りのための学習空間・ツール

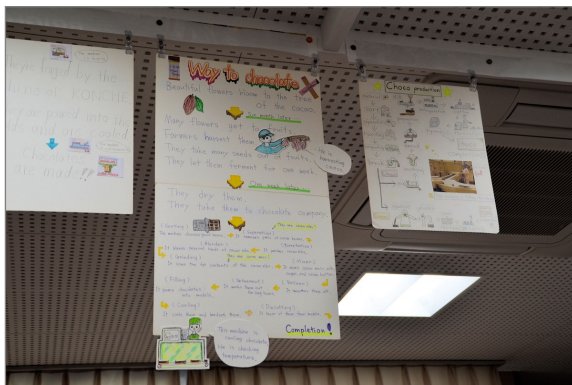
- ・JICA 中部 ガーナボックスよりガーナの写真10点
- ・ガーナ研修での写真12点
- ・民族衣装 ・民族楽器
- ・ガーナで購入した世界地図
- ・英文の構成をまとめたヒントシート
- ・現在進行形の文章の作り方をまとめたヒントシート



2 授業の様子

多くの生徒は積極的に自分の表現したいことを調べて、それを英語で表現しようと取り組んでいた。日本語を直接英語に訳すのではなく、同じ意味になるような別の言い回しを考えるように考えさせた。最終的な成果物としては予想を大きく上回る作品が多く提出された。また普段は並び替え問題も解答をせず空欄で試験を提出する生徒も、自分で調べた「おもしろい」と感じたことであれば辞書を駆使して英語にすることができた。授業後のアンケートでは 80%以上が一斉授業より英語の知識を活用することができたと回答し、知識が深まったように感じる生徒も80%を超えた。その一方で、途中で何をすればよいか解らなくなり、友達と話してしまったと答える生徒も見られた。課題として、生徒により綿密に学習計画の作成と進行管理を行わせ、目的と作業量が見える形で自己管理させる工夫が必要と感じられた。

<写真1>



<写真2>

